

科学研究費補助金（基盤研究（S））研究進捗評価

| | | | |
|-------|--|-----------------|-----------------------------|
| 課題番号 | 19101002 | 研究期間 | 平成19年度～平成23年度 |
| 研究課題名 | メダカ逆遺伝学的手法を基盤とした 固体・組織レベルでの損傷応答解析系 の確立 | 研究代表者 (所属・職) | 藤堂 剛（大阪大学・大学院医学 系研究科・教授） |

【平成22年度 研究進捗評価結果】

| 評価 | 評価基準 |
|--|--|
| | A+ 当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる |
| ○ | A 当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる |
| | B 当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である |
| | C 当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である |
| <p>(意見等)</p> <p>本研究は、1) 逆遺伝学的手法の確立、2) 組織特異的遺伝子発現系の確立、3) DNA 損傷応答解析により構成されているが、それぞれの研究計画にしたがって研究が進行し、ハイスループットのスクリーニングを可能にすることにより変異を同定し、顕微鏡下赤外レーザー照射装置の完成により1細胞レベルでの遺伝子発現制御を可能にするなどの成果を挙げた。研究組織に参加した研究者はそれぞれの役割を果たし、学会や論文での発表も活発に行われている。研究費の使用にも問題は見られない。研究の継続により所定の成果が挙がるものと期待する。</p> | |

【平成24年度 検証結果】

| | |
|------|---|
| 検証結果 | <p>本研究は、1) 逆遺伝学的手法の確立、2) 組織特異的遺伝子発現系の確立という2つの技術開発を主たる目的としている。これらの技術に関しては当初の目的が十二分に達成され、ハイスループットの有用な技術が利用可能になっており、この点は評価できる。ただし、その技術を用いて並行して行われた、3) DNA 損傷応答解析については優れた成果が挙げたとは言いがたい。</p> |
| A- | |